



イノベーションシステムの活性化

神戸大学 経済経営研究所
経済産業研究所 ファカルティフェロー
延岡健太郎

日本のイノベーションシステムはどうあるべきか

- ◆ 米国モデルに振り回されていないか？
 - ◆ 独自モデルが競争優位の必要条件
- ◆ イノベーションシステムとしての大企業VSベンチャー
 - ◆ 大企業のイノベーションシステムとしての評価
- ◆ 開業率は高いほうがよいのか
 - ◆ 開業率と廃業率は高い相関
- ◆ 日本の企業、日本人の強みを忘れていないか
 - ◆ 組織重視・グループ志向
 - ◆ 「Greedy」でない国民性

イノベーションを取り巻く環境

技術・市場環境

- 早い変化と多様性
- 高い事業の不確実性



多くの挑戦が必要
(打席数重視)

大企業の方向性

- 利益率を重視
- 選択と集中



成功確率が重要
(打率重視)



「ベンチャーと大企業を統合したイノベーションシステムの必要性」

解決策：大企業主導のシステム改革

- 大企業の役割：事業・技術市場の活性化
 - ベンチャー事業や技術の積極的な購入・導入
 - N I H シンドロームの排除
 - 戦略転換と専門組織が必要
 - 外部での活躍に適した研究者の優遇退職を促進
- 起業活動の活性化
 - 株式公開（IPO）以外で、より短期的なExit Strategyの選択肢
 - 大企業との関連強化によるリスク低減